

# 下河辺氏

(しもこうべし)



「出雲伊波比神社のやぶさめ」  
埼玉県指定無形民俗文化財  
(写真提供：  
埼玉県毛呂山町歴史民俗資料館)  
弓の名手とされた行平もこのよう  
に流鏑馬に興じたのであろうか

下河辺氏(しもこうべし)は下河辺氏系図(『尊卑分脈(そんぴぶんみやく)』)には、始祖の行義(ゆきよし)は下野国(しもつけのくに)の有力在庁官人であった小山政光の弟にあたり、下河辺庄司(しょうじ)といい、その子行平は次郎庄司を称しています。『平治物語』には、行義は源頼政の郎等として平治の乱に参加したこと、『源平盛衰記』には頼政・以仁王(もちひとおう)の挙兵時には清恒(行義の事か)が自害した頼政の首を隠したことなどがあり、頼政と主従関係にあったと考えられます。頼政の父仲政は、下総守(しもうさのかみ)として赴任した時期があり、そのときに関係を結んだものと思われる。

頼政に従軍していた行平らは、挙兵に失敗すると本貫地下河辺庄(ほんがんち しもこうべのしょう)(下河辺氏一族発祥の地)に戻りますが、平氏の追討は必至です。そこで行平は、弟政義と源頼朝の求めに応じて平氏打倒の軍に加わります。平惟盛を富士川の合戦で破った後の論功行賞により下河辺庄司として認められ下河辺庄の地頭(じとう)となります。また頼朝から後継者源頼家の弓の師匠に任命されたり、源家一門に準じる扱いとされたり、頼朝の信任厚い人物として幕府内で重きをなします。しかし、正治元年(1199)頼朝が没すると、次第にその存在感を失います。しかし、行平の子孫は弓馬に達者な武士ということで、流鏑馬(やぶさめ)などの行事において、重要な役割を果たします。また、下河辺庄が金沢北条氏領になっていったことで、その家臣となる人々もいたものと思われる。政義の子孫は、常陸国南郡(ひたちのくにみなみぐん)にその勢力基盤を移し、益戸(ますこ)などを名乗るようになります。

東京都港区新橋の烏森神社(からすもりじんじゃ)には、下河辺行平が奉納したという鰐口(わにぐち)が存在します。これは江戸時代後期に成立した『新編武蔵風土記稿』にも掲載されていますが、偽物であることが判明しています。しかし、行平が優れた武士であったことが一般に広く知られていたことを示すものといえるでしょう。

《詳しくは…》

\* 小松寿治 1995 「鎌倉初期の下河辺氏について —『吾妻鏡』の記事を中心に—」 野田市史研究 第6号 野田市

下河辺氏の系図  
「尊卑分脈」所収

